健康と美容に 弘前りんご
毎月5日は「りんごを食べる日」
米の生産調整にご協力を！
弘前市水田農業推進協議会

農業ひろさき

2009年5月1日 (第39号)
(平成21年5月1日)

編集と発行
弘前市農業委員会
弘前市賀田1丁目1の1
☎(0172) 82－1638
印刷 ㈲新和印刷

きずなを強め 経営発展！

家族経営協定書に調印

農業経営の目標や労働環境について家族で話し合って取り決める家族経営協定の調印式が三月十九日、市内賀田の中央公民館岩木館で開かれ、協定を結んだ家族が今後の更なる経営発展を目指して決意を新たにしました。

（前列左より）小野さん、高橋さん、清野さん

市農業委員会（横沢由春会長）による今回の調印式で、協定を結んだのは小野平治さん（鬼沢）、高橋和彦さん（楢木）、清野せつさん（樹木）の三家族です。

協定書には家族が思い描く夢をスローガンとして掲げ、その実現に向けて役割や報酬、休日の取り方などをそれぞれの生活に合わせて書かれています。

調印式では横沢会長と中南地域県民局地域農林水産部普及指導室の神山彰室長が立会人を務め、家族と一緒に協定書へ署名しました。

署名後、横沢会長と神山室長の激励に対し小野さんは「足腰の強い農業で次世代につないでいきたい」、高橋さんは「宅配での販路を開拓していきたい」、清野さんは「各自が役割を持って経営しながら後継者を育成していきたい」と、今後への抱負を述べていました。

今回を含め、本市での家族経営協定締結数は三十九戸となります。

認定農業者制度の共同申請や農業者年金制度における国庫助成などのメリットがある家族経営協定について知りたい方は、左記へお問い合わせください。

■問い合わせ先 市農業委員会☎82・1638 中南地域県民局地域農林水産部普及指導室☎34・2136

下敷きでりんごを学び、ジュースを飲んで元気よく

新入学児童へ りんご下敷きなどを贈る

「ふじ」や「つがる」などの収穫期や特徴を、写真つきで紹介しているりんご下敷き（写真上）

弘前りんごの会（会長・相馬錩一弘前市長）は四月三日、この春、市内の小学校に入学する児童へりんごに親しみをもってもらおうと、弘前市小学校長会を通じ、りんごの品種や作業が描かれた下敷きとりんごジュースを贈りました。

今年は下敷きに加えて、りんご加工品の消費拡大につながるようりんごジュースも一緒に贈り、受け取った木村邦義会長（小沢小学校長）は「りんごが大好きな子どもたちを育てていきたい」と述べていました。

悪戸にある青柳小学校（細羽見憲悦校長）では、４月７日の入学式に合わせて下敷きとジュースが配られました。受け取った児童たちは興味深そうに下敷きを眺め、「りんご好きですか」との先生の問いに、元気よく手を上げていました。

下敷きを受け取る木村会長（中央）

凍・霜害注意！気象情報に注意し、被害防止対策を行いましょう。

地域の核となって活躍を

『トップランナー塾』と『病害虫マスター講座』が閉講

昨年から農業経営や財務、農薬に関する知識について学んできた本市の担い手たち。今後は、地域の核となって身につけた知識や技術を広めていくことが期待されます。

修了証を受け取る工藤さん（右）

◆大きく育て！青春・農起業トップランナー塾

三月二十三日、県の「大きく育て！青春・農起業トップランナー塾」の成果発表会と閉講式が青森市で行われ、三村申吾青森県知事から二十五名の塾生に修了証が手渡されました。

生産から販売まで一貫した計画を実践しながら、経営感覚や財務能力に優れた農業者の育成を目指す同塾には、本市から工藤昌弘さん（前坂）が参加しました。

りんごの低農薬栽培やインターネットを活用した農産物販売の成果を発表した工藤さんは「消費者ニーズに対応したりんご栽培やネット販売を強化していきたい」と、今後の意気込みを話していました。

謝辞を述べる成田さん（左）

◆りんご病害虫マスター養成講座

三月二十五日、地域で活躍できる農薬に精通した人材を育成する「りんご病害虫マスター養成講座」の修了式が青森県りんご協会講堂で行われ、同協会の福士春男会長から受講生に修了証書が手渡されました。

りんご産業に関わる市町村の委託を受け実施した講座には、本市から十四人が参加し、りんご病害虫の発生予察から防除までの基礎知識と応用技術を学んできました。

受講生を代表して本市の成田和男さん（下湯口）が「地域が安心してりんご栽培に取り組めるよう産地の育成と強化に頑張っていきたい」と謝辞を述べ、これからの活躍を誓いました。

農業委員会委員選挙人名簿 確定登録者数29,569人

3月31日、農業委員会委員選挙人名簿が確定しました（左表参照）。

登録者数は昨年と比べて432人の減（弘前地区254人減、岩木地区141人減、相馬地区37人減）となっています。

この名簿は、農業者の皆さまから提出された申請書に基づき、毎年１月１日現在の選挙資格を調査し調製したもので、平成21年３月31日から平成22年３月30日までに行われる農業委員会に関する選挙に使用されることになります。

地区	登録者数（人）			地区	登録者数（人）		
	男	女	計		男	女	計
旧市・堀越	811	953	1,764	裾　野	1,426	1,515	2,941
和徳・豊田	1,246	1,364	2,610	新　和	1,312	1,376	2,688
千　年	1,079	1,208	2,287	石　川	1,040	1,157	2,197
清　水	855	937	1,792	岩木(1)	1,102	1,223	2,325
藤　代	866	976	1,842	岩木(2)	1,019	1,057	2,076
東目屋	676	730	1,406	相　馬	877	916	1,793
船　沢	866	911	1,777	合　計	14,150	15,419	29,569
高　杉	975	1,096	2,071	（うち法人）	(10)	(2)	(12)

青年農業士とVｉC・ウーマン紹介します

平成二十年度に県から認定された、地域農業の推進役として活躍する青年農業士二人と、特色ある地域農業の振興と活性化に取り組むＶｉＣ・ウーマン二人を紹介します。

今回の認定者を含め、本市の青年農業士は十八人、ＶｉＣ・ウーマンは三十三人となります。

石岡さん（左）と棟方さん

三浦さん（左）と齋藤さん

石岡照久【悪戸】

りんご栽培の高品質生産に努めながら、りんごに関係する多くの組織に加入し、地域の農業者と栽培から経営に至るまでの幅広い情報交換を行い、積極的に地域の仲間づくりを行っている。

棟方倫輝【乳井】

りんごと水稲の複合経営を行いながら、各種研修や農業関係の組織での活動のほか、消防団などの地域活動にも積極的に参加し、農業青色申告会認定指導員として会員への指導にも意欲的に取り組んでいる。

三浦由紀子【前坂】

売れる農産物生産を実践しながら、地区の野菜直売組織の会長として、新規品種等の研修会や直売所の先進地視察、会員が生産した野菜を使い消費者を対象とした料理教室を企画・実施するなど、地域農業の振興に活躍している。

齋藤美鶴【一野渡】

パソコンクラブで得たパソコン操作や簿記記帳の技術を活用し、顧客及び経営管理などを自身の農業経営に活用するだけでなく、クラブの副会長として若い担い手女性への指導にも意欲的に取り組んでいる。

中南地域県民局地域農林水産部では「地域循環型りんご剪定枝有効活用事業」を立ち上げ、平成21年度と22年度にわたり、りんご剪定枝の有効活用に集中的に取り組むことになりました。

最近では、剪定枝を粉砕し成型した固形燃料のペレットやたい肥の原料、チップにしてマルチ資材としての利用など様々な取り組みが行われています。

今後、地域の貴重な資源であるりんご剪定枝の有効活用へ取り組んでみたいという方は下記へお問い合わせください。

■問い合わせ先
中南地域県民局地域農林水産部普及指導室
☎34－2136

取り組みの内容は下表のとおりです

1　地域内完結型りんご剪定枝利活用方針策定事業

○研究会による具体的方策の策定（弘前大学、農協、市町村、県関係機関などが構成員）
○生産組織（有効活用組織）への支援
○現地実態調査のほか、分析や基礎資料づくり

2　りんご剪定枝有効活用実践事業

○剪定枝の収集及びチップ化までの一次加工に取り組む生産組織の育成（２か年で10組織）
○生産組織、認定農業者及び認定農業者を含む集団へ剪定枝チッパーをリース方式で補助
○剪定枝チップのマルチや稲わら等との混合たい肥化など、新たな取り組みの実証

3　りんご剪定枝活用型新産業創出事業

○チップストーブや家庭菜園での利用などに向けた一般市民向けフォーラムの開催
○市民農園などでの剪定枝の有効活用方法の実証・普及
○生産組織がつくった剪定枝チップの販売・配送体制づくり
○農業資材メーカーと共同で園芸用マルチ資材などの新たな資材の開発・実証・製造・普及

青森県農林総合研究センターとりんご試験場の名称が新しくなりました

平成二十一年四月一日から県の試験研究機関は地方独立行政法人となりました。

これに伴い、中南地域にある農林部門の施設名称は下表のとおりとなりました。

名称が変わっても業務内容等はこれまでどおりです。

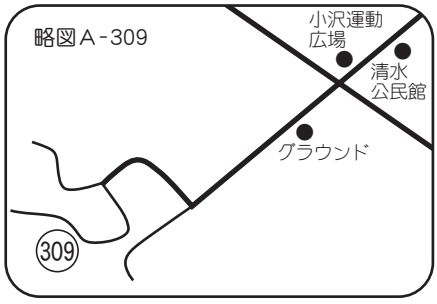
■問い合わせ先　地方独立行政法人青森県産業技術センター本部事務局企画経営室☎52・4319

旧　名　称	新　名　称	住　所	電話
青森県農林総合研究センター	地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所	黒石市田中82-9	52-4346
青森県農林総合研究センターりんご試験場	地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所	黒石市牡丹平字福民24	52-2331

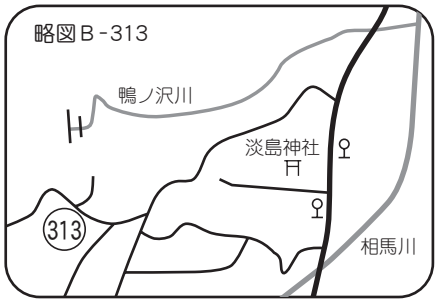
※住所は旧名称時と同じです。

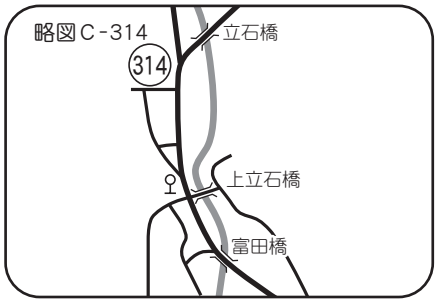
農地流動化情報（新規）

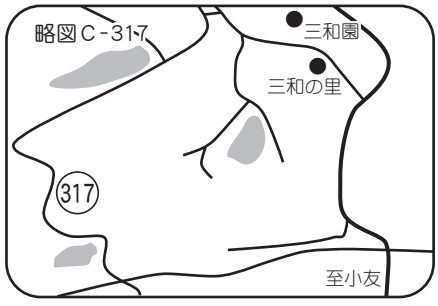
■取扱窓口及び問い合わせ先
①農業委員会事務局(岩木庁舎１階)　☎82-1638
②農業委員会弘前分室（市役所新館２階）
☎35-1111　内線357
③農業委員会相馬分室（相馬庁舎２階）
☎84-2111　内線841



申出区分	略図	農地の所在	利用状況	面積	希望売渡価格	取扱窓口
売りたい	A-309	小沢字蟹沢	りんご	155.95a	交渉次第	①②
	B-313	相馬字鴨ヶ沢	りんご	55.58a	交渉次第	①②③
	C-314	藍内字立石	りんご	37.88a	交渉次第	①②③
	D-317	三和字下恋塚	りんご	33.10a	交渉次第	①②







りんご花まつり

期間：５月８日(金)～17日(日)
場所：りんご公園（清水富田字寺沢）

◆主なイベント

期間中実施
- 津軽三味線ライブ
- 語り部による昔語り
- りんごの花茶無料サービスほか

週末限定
- 歩行者天国
- 地元アーティストによる無料ライブ
- 親子りんご皮むき大会ほか

８日～10日・16日・17日
- ミニＳＬ運行(無料)

※各イベントは都合により中止する場合があります。

■問い合わせ先　りんご公園 ☎36－7439

お知らせ

樹体共済

台風による倒木や雪害による樹体の損傷を補償

申込み期間　６月５日(金)～７月６日(月)

◆**樹体共済とは**…樹体そのものの損害を補償するものです。

◆**対象となる災害は**…自然災害による流出・滅失・埋没。病害虫や野ネズミの害による枯死。その他雪害による損傷など。

◆**加入要件**…10㌃以上栽培している農家（全園地加入が条件。ただし未結果樹（幼木）は対象外。）

◆**補償額…共済価額（樹体の評価額※）×補償割合**

※育成に要した費用と将来期待される収益を現在価に換算した額。

◆**共済金の支払い**…損害額が10万円、又は共済価額の１割を超えた場合支払われます。

◆**補償期間**…７月11日から１年間。

○掛金については、問い合わせ先へご確認ください。

■**問い合わせ・加入申込み先**　ひろさき広域農業共済組合☎28・5700

農業ひろさき「農業委員会だより」全国コンクール最優秀賞受賞

表彰式に出席する下山勇一編集委員長

市農業委員会発行の農業ひろさきが、全国農業会議所と全国農業新聞主催の第十五回「農業委員会だより」全国コンクールで、最も優れた広報紙として最優秀賞を受賞し、平成十一年度の第六回に続いて二度目の快挙となりました。

今回のコンクールには全国農業新聞の各都道府県支局から三十八紙の応募があり、本紙は農家にとって必要な情報を的確に提供していることや編集体制などが評価されたものです。

今後も読みやすく、分かりやすい紙面づくりを心がけていきますので、ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

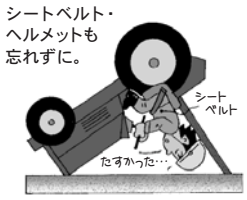
安全な農作業で家庭・地域に笑顔を！

春の農作業安全運動 実施中！
（４月１日～５月31日）

運動の重点

①特に高齢者は無理せずに慣れた作業も油断は禁物！
②事故多発！ トラクターの運転は要注意
③機械点検時には**エンジン停止！**機械への巻き込まれに注意

事故発生第１位
トラクターの転倒事故



ほ場への出入りや畦越えは慎重に

事故発生第２位
機械への巻き込まれ事故

点検時には必ずエンジンを止める
機械に巻き込まれない服装

春の農作業事故事例

春には多くの事故が起こっています。
どんなに忙しくてもあせらず、
基本操作を忘れずに安全に作業しましょう

①トラクターの転倒・転落	トラクターで通路から河川敷に転落し、トラクターの下敷きとなり死亡。
②機械への巻き込まれ	畑を耕起中にトラクターに異常を感じ、トタクターのロータリー部分を点検していたところ、突然動きだし、ロータリーに巻き込まれ死亡。